

八清親和会 自治会役員のひとり言

令和1年11月15日

No16

八清親和会 副会長

吉田祐治

現職世代・若者たちが祭りに集う

令和1年8月10日・11日の八清親和会主催、昭和天満宮大祭も大盛況のうちに終わり、今年の八清親和会行事も、師走の「もちつき大会」を残すのみとなった。今年も、

- ◇「八清親和会」の祭りで、自治会が楽しくなり、地域が元気になっている！
- ◇「八清親和会」の祭りで、神輿の会、老人会、子供会、商店会が団結して“ワンチーム”になった！
- ◇「八清親和会」の祭りで、地域が一つになって、地域のつながりが再びよみがえってきた！

青梅線JR東中神駅から南へ3分ほど行くと、昭和16年に造られた八清住宅街がある、このまちにあるのが自治会「八清親和会」。戸建て住宅と小さな集合住宅、商店が混在する約800世帯の地域に、毎年8月の第2週土・日、地域の外から多数の現職世代や若者たちが足を運ぶ日がある。

昭和天満宮の大祭である。

祭りを見物に来るのではない。

祭りの担い手として、神輿の会の法被や、自分の思い思いの法被に身を包み、神輿を担ぐ。今年も20代から60代の現職世代・若者たちが2日間に渡り、万燈神輿・本神輿を担ぎ、おおよそ延べ人数140名ほどが参加し、地元神輿同好会「八清天親会」の会員を加えると200名以上の人数になった。

地縁だけでは「地域を支えられる時代ではない」日々そう感じられる今、子供のころ盆踊り舞台を囲み、多くの屋台やお化け屋敷などがでていた頃、神輿の担ぎ手も多くいたが、商店街が衰退し、若者たちは独立し、新しい住民たちが加わることは少なく、高齢者ばかりが増えてきた。

そして今、八清地域の祭りを支えているのは、神輿同好会「八清天親会」の現職・若者世代と、八清親和会員、老人会、子供会、商店会と地域住民である。

この中心となる神輿同行会の正式名称は“昭和天満宮神輿同好会【八清天親会】”この会は、玉川町の八清地区自治会「八清親和会」会員の“神輿を担ぐお祭り大好きな人たち”が、1990年に発足させ、今では祭りのない近隣自治会員も加わり、60名ほどになっている。

彼らは、神輿を担ぐだけでなく、模擬店の運営も担い八清親和会と一体となり、祭りを盛り上げている。また、近隣地区団体と神輿を通して交流を持ち、他団体の神輿巡業時には皆で担ぎに行っている。

このような交流の積み重ねが、今では私たちの祭りに地域の外から多数の現職世代や若者たちが集う源になっている。そして、地元を支店を置く企業や協会団体の若者も参加している。



八清天親会の会長とメンバーの一部



他の団体に神輿を担ぎに



地域の外からの神輿の担い手たち、祭りを楽しんでいる



昭島市の歴史ある神社の祭りは、主催は神社やその氏子会であり、自治会はその一部を担って参

加しているのがほとんどではないだろうか。昭和天満宮は小さな神社で、氏子会もなく管理や神社のお守りは、自治会「八清親和会」が行っている。このため祭りを主催し準備から運営迄すべてを担い行っているこのような祭りは、昭島市広し、といえども昭和天満宮大祭だけかも。

年々、昭島市内で行われている自治会主催の地域の祭りも、自治会員が減り、高齢者が増え、若い人たちや子供たちの参加者が減り、祭りの担い手やお手伝いが集まらないと聞く。

昭和天満宮大祭も10年前までは、歴史あるが故のマンネリ化、旧態依然の運営などにより、お年寄りや現職世代、若者・子供達たちの祭り参加者が減り、また祭りの担い手、お手伝いの引き受け手がない、また寄付等が減り、祭りの衰退危機が訪れた時もあった。

6年前より、盆踊り舞台の八清公園に「閑古鳥の鳴くような状態から」如何に脱却し、昔のような賑わいある祭りには、どうすればよいかいろいろ考えた。

それは“古式あらたなる祭り改革”であった。時代の変化と共に変わった自治会環境や、現職世代・若者たちの考え方を取り入れた、古いしきたりを維持しながらも、新たな祭りの目標と運営である。昭和天満宮は、昭和16年に八清住宅街と共にできた神社で、他地域の江戸時代から脈々と受け継がれてきた歴史ある神社の祭りとは違い、多少抵抗があったが“祭りの近代化”ができたことである。

それは、自治会“八清親和会の再活性化”目標と、その実施計画を“祭り改革”にも取り込み、6年間一つひとつ改善を積み重ねてきた結果、今では、単一自治会主催の祭りで、2日間の延べ参加人数は1,300名を超える賑やかな地域の祭りに再生できた。

地域の外から神輿を担ぎに来る現職世代・若者たちだけではなく、自治会未加入の住民や、祭りのない周辺自治会員・住民等多くのお年寄りや子供たちまでが集う祭りになった。

地域の祭りは、住民同士のつながりの象徴といえる。地縁が薄れた今だからこそ、地域に果たす役割は大きい。

今や昭和天満宮大祭は、八清親和会の世帯参加者が70%近くまで増え（抽選会参加券や焼きそば無料交換券の集計分析データ結果による）今では、お年寄りから現職世代、若者、子どもたちの三世代のふれあい、親睦、周辺自治会員・住民との交流の場にもなっている。



神輿巡行後の八清天親会の皆さんと地域の外の担ぎ手の皆さんとの、賑やかな懇親の様子

“祭り改革”に取り入れた“八清親和会の再活性化”が目指している“3つの楽しい”行事目標は、

- ・ 見ているだけで楽しい → 祭りを見ているだけで楽しい
- ・ 参加して楽しい → 祭りに参加して楽しい
- ・ お手伝いして楽しい → 祭りのお手伝いして楽しい

特に、「祭りのお手伝いの引き受け手がない・やりたくない」の開き直りともいえる「逆転の発想」を取り入れ「だったら、祭りのお手伝いが、楽しいお手伝いになるようにしたらどうか！」を目指し、仕組みづくりや運営の改善を行ってきた、今ではお年寄りから現職世代・若い人たち、会員の奥様方が積極的に、楽しみながらお手伝いに参加してくれるようになった。

今年の祭りは、お手伝い登録者と末端のお手伝い応援まで含めると102名の大部隊となった。

今や昭和天満宮大祭は、今年のラグビーワールドカップ日本チームのように、自治会「八清親和会」「老人会」「子供会」「商店会」の各団体が一致団結し“ワンチーム”になり、今や八清地域が祭りで一つになる。

よく人から、何故そこまでやるのかと、言われる。

祭りがにぎわっただけではなく、他の行事もにぎやかになり、途絶えかけていた地域のつながりも再生した。

行動すれば、自治会は元気になる！ 以上

